公共施設ＷＧの成果（オープンハウスパネル案）

別紙

本が部屋の中にあるように見える。点線の外にあった方が良い。

吹き出しの位置を変える。活動に関係した本が近くにあることを表現しては。

コンセプトはもっと分かりやすく上の見出しは市民には不要

エリアのネーミングを変えた方が良いのでは

工房
ファクトリー
メーカースペース

コラボレーション
イノベーション
交流、革新
ケミストリー
相乗効果

何が統合されたのかが見えない。
→パネル前半で複合対象施設は記載あり。誰がというのは、絵で表現したい。

どの施設が入るのかということが、パッと見て分からない

機能の種類によって部屋名等の色を変える。見える化。図書館機能、公民館機能とか・・・

１枚目のパネルにも、この施設が１つになるというメッセージを入れた方が良い。

イラスト下の文字は見えない。
「フリースペース」くらいまでしか見えない。情報量を減らさないと見てもらえない。

すぐ隣に本が並んで手に取れる

蔵書エリアと「本が手に取れる」というのが、ごちゃごちゃになっている。意図を書く

白鳥池

実際の公園との位置関係を考えてしまう。公園エリアに向かってまとめては。

景色が見える

誰もが気軽に集って賑やかに過ごせる

蔵書エリア

図書館閲覧席

賑やかと静かのエリアの線を重ねては。
中間領域

ワーキングスペース

郷土資料

行政窓口や蔵書エリアも同じような扱いの方が良い。
目立たせたいものは黒線とか

視聴コーナー

落ち着いて静かに過ごせる

寂読書室

国際交流ラウンジの機能が分かるように

エリアが現状の施設などの機能を持っているのかが分かるように表現すると良い

相談ブース

対面朗読室

専用諸室エリア

ＤＩＹの本

演劇の絵が入っていれば

アトリエ

ダンス
スタジオ

会議室

音楽の本

音楽
スタジオ

調理室
子ども食堂でも使えるようにという意見があったが、そのようなときにも使えるということを伝えたい

エリアの実線の色をエリア名と合わせたほうが分かりやすい

図鑑
マンガ

読み聞かせできる

子どもが遊べる
多目的室

寝転んで
本を読める

子ども
の本

お互いの活動が見えてゆるやかにつながる

お互いの
活動が見える

「ゆるやか」というワードがもっと分かりやすくなっていれば

ゆるやかにつながる目的をポイントとして記載しては。利用のきっかけになる等

ゆるやかなつながり
↑
お互いの活動が見える
何となく分かりづらい

お互いの活動が見えるようにしてというレベルくらいで良い。つながるために施設をつなげたりはいらない

フリースペース

利用の
きっかけ

相談ブース
プライベートな相談もできるということが分かるようにしたい。
プライバシーとか

行政
窓口

見守る

ロビー
（イベント開催可）

子どもが本に触れながら楽しく過ごせる

賑わい空間エリア

見守る

中間領域
グラデーションで表現しては。

サッカーはさすがにしないのでは？
バトミントンなど

テラス

静かな空間エリア

何かの時には（災害）どう使えるのかを示した方が良い。市民の方は気にすると思う。

説明の順番を変えた方が良い
公園→公共施設
→まちづくり

防災も考えていることが分かるように

区分けがごちゃごちゃで分かりづらい。ひと目で見て分かるようにエリアを分けたり

共用部分がきちんととれるように（コロナ禍）

女子トイレの個室を多く作って欲しい

世代間交流についての表記があればよい

公園エリア

交通公園

コンセプトを分かりやすく修正

専用エリア
予約専用エリア
などに修正

防災についての表記
→計画の方で考える。パネル案には入れない。入れるとしても、別パネルに説明として入れる。今後こうしますというパネル

すぐ隣に本が並んで手に取れる
→活動に関係した本が近くにあることでどうなるのかという表現に変える

中間領域の表現の工夫

「新たな活動につながるゆるやかなつながり」のように修正

エリア名の枠線の色を揃える

相談ブースの表記を分かりやすく修正

施設ごとに色分けする（タイトル）

※黒太枠で囲われたものは、公共施設WGで最後に修正の方向性等を確認した際の意見